



號八十二第
 月一年五十和昭
 行發日五
 行發日五・回一月毎
 錢五金部一價定誌本
 錢拾六金(共稅)年一
 助之幸川大 編發行發
 人副印報
 一ノ七西座銀區區京市京東
 社信通盟同 所行發

年頭の辭

社長 古野伊之助



紀元二千六百年の輝く新春を迎へ、謹んで聖壽無窮を壽ぎまつる。

歐洲の諸國が相撃ち、相鬨ぎつゝ空爆の脅威下に在るを遠く望みつゝ、われらの支那事變は早くも第四年に入り、大東亞のカンパスに揮ふ建設の筆は着々として進みつゝある。

然しながら内外の情勢は益々複雑深刻にして、われらの往く道は決して平坦安易なものではない。内政に外交に物資計畫にたゞならぬ試練の時をこそ、今やひし／＼と身に覺えるのである。

とは云へ、古來國難に遭ふ毎に、よくこれを克服して、一段の進歩と飛躍を遂げてきた日本であり、日本民族である。

來れ！ 苦難。前線も銃後も一心一體、國力をあげて今こそ邁往せむ。わけても武器なき戰場、國際思想戦の第一線に國家を代表して起つわれらの職責は愈々重大である。

わが同盟通信社も成立以來茲に五年、既にして世界第一流の國家代表通信社としての名實を備へるに至つた。榮あるこの佳き年と共に、われら二千二百の全社員は、大同結盟の精神に燃えつゝ、更に新たなる筆心を以て報國の誠を捧げんことを誓ふものである。

消息

社會部社員 高維辰馬
 十二月二十一日東京發廣東支局臨
 時在勤として赴任
 政治部社員 芥川 典
 麻布三聯隊に入隊中の處十二月十

一日召集解除
 企畫部長 波多 尙
 約四ヶ月に互り中南支方面視察中の處十二月四日歸任
 調査部長 内海朝次郎
 北支、中支方面視察中の處十二月十一日歸任
 庶務部長兼 大川幸之助
 航空部長

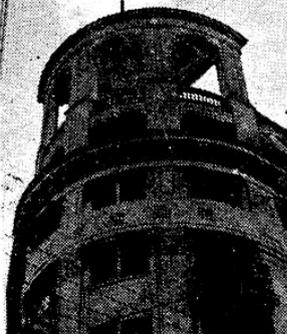
約四ヶ月に互り北支方面視察中の處十二月二十八日歸任
 經理部社員 山本村壽
 事變勃發直後應召各地に奮戦し此の程歸還十二月八日より出社
 中華聯合通訊社理事
 十二月二十一日來京
 柳町 精

新装成れる

中南支總局

虹口の空高く大社旗

中南支總局の事務所が愛多亞路から(英文、經濟を殘して)現在の虹口へ引越してから早くも半歲附近は見違へるやうに復興した、壯烈な市街戦を偲ぶ彈痕の上には、五色のネオンが輝やいた事變の華上海戦を早くも歴史の彼方へ追ひやつた感



れで「同盟は建物は大いだが旗が小さい」とか「もつと遠くから同

スポーツの北支總局

北支總局のスポーツの熾んな事を紹介しやう、野球、卓球、スケート……四季を通じて酷暑も寒冷も吹き飛ばす勢、昨秋の野球は連日の猛練習により新報、新民院、書館、憲兵隊等の強剛を連破し、堂々全北京の大會に打つて出たがこの大會には六大學、高專、甲子園、職業野球等の經歷選手を持つ伊藤忠商事に惜敗した。その後大毎に十七A對一、北京記者團には九A對〇で大勝シーズンを終えりと云ふ成績であつた。

昨今は卓球が全盛、大毎、軍報道部(二回)と勝ち放し、社内の選手權大會又熾んなもの、第六回大會は十二月十日舉行、シングルスは藤原君が優勝し、ダブルス神子島賞、大岩賞を獲得、ダブルスは好調の藤原、和田組が神子島、大岩、大川各賞をとり、参加二十餘名、總局員の半ばを越える盛大さである。之からはスケートが始まり又新たに相撲熱も出て、土俵建設の意見も具體化してゐる。

仕事とスポーツが我等總局員の生活で、麻雀等は姿を消し全體の氣分を引緊めてゐる。健康にして元氣な總局便り。(S)

がある、併しこれは決して聖戰を忘れるといふ意味ではない、斯うして戦火の後に新しい街を築き上げる事こそ東亞新秩序の建設なのだ、所でわが同盟社も豫めて懸案となつてゐた「同盟通信社」の金文字を七層目に取りつけ更に本社から到着した大社旗を掲げた、こ



盟を分るやうな旗なり看板なりかなくちや始めての人々は見當がつかん」といふ非難もなくなつた大社旗は颯々と虹口の空高くハタメいて一目瞭然同盟社の存在が分るやうになつた、今迄空いてみた階に近く森永喫茶が開店するんださうだ、一寸嬉しい氣もするが、金が要ることだらうと心配にもなる。(寫眞は中南支總局外觀と社旗掲揚)

紀元二千六百年を迎へて

理事 (讀賣新聞) 柴田勝衛

建國以來最大の國難を突破して敢行せられた今次聖戰の意義を稽ふるとき、我等國民は齊しく紀元二千六百年に生れ合はせた榮譽と幸福とに感謝すべきである。

同 (中國新聞)

山本實一

紀元二千六百年を迎へ更に清新の意氣を以て、新聞報國の一路に邁進するの決意あるのみに候

同 (京都日出新聞)

後川晴之助

今こそ皇國及皇國民の存立の理由と意義とを中外に明確に宣揚し之を認識せしめねばならぬ事を痛感する。新聞人の場合に於ても亦然り。

同 (旭川新聞)

田中秋聲

物事の組織構成といふことはもとより重要であるけれども、常に全體を生かす強力な人間の再建こそ今日特に緊要であると信ずる。

編輯局長 岡村二一

一、自己に求める一片隅でブツブツ言つてゐたくない。理想の高遠よりも、批評の峻厳よりも今は先づ一つの實行である。

一、政治力に望む——あらゆる内外の施策が、強い單一の力によつて貫かれしことを。
北支總局長 神子島格郎

一、紀元二千六百年に本統に強力な中央政府が東京(南京に非ず)に樹立される事を翹望する。
一、無批判の代價は高價である。

經濟隨想

「準戰時經濟體制」から

「純戰時經濟體制」から「自治的統制經濟」から「權力的統制經濟」へ

事變の進展につれて、經濟統制はあらゆる方面に亘つて行はれ、ますます擴大強化されて来た。國家總動員法も昨年中、次ぎ／＼に發動されて、非常時意識はますますたかめられたかの感がある。そうして、軍需品を豊富且つ迅速に供給すること、悪性インフレーションを防ぐことの爲に、生産力の擴充とか、輸入力の増大とか、物價騰貴の抑制とか、公債消化力とか、それ等の問題の解決が焦眉の急務とされ、國をあげて事變の完遂を圖つて来た。にも拘らず、昨年の下半期頃からは、複雑怪奇なる歐洲情勢をも織込んで事變の影響は、國民生活の層にまで直接ひびいて来た。恰も物價

停止令が國民生活脅威への口火であつたかの様に、事變の波紋は表面に大きな波を畫いて来た。米がない、木炭がない、石炭がない、電氣は制限だ、火をつけ様にも燐寸がない等々と物資の不足は、「生活不安」の憂害を呼びおこし、凡ゆる階級の人々をその濃霧の裡につまんで了つた。我國が建國以來全國民が最も緊張した時、國運を賭する冒險を取へてした日清、日露の兩戰役においてもこの「戰時經濟體制」とか「統制經濟」とか云ふ様なことは、少しも経験しなかつたのに今度は——我國經濟力の、最も強

みとされて来た米までが足りない——しかも日銀兌換券は四十億圓に迫らんとした——今後は一體どんなになるのであらう？それが、統制經濟下の昨年の實相であつた。未だ曾つて経験したこともない惱みの中に、この歳は暮れた。

「經濟力」を中心として押し進

められてゆくであらう。目前には一月二十六日、日米通商航海條約満了の日がある。新

支那中央政權の確立ととも、東亞經濟協同體の確立は益々急務しなければならぬ。文字通りの百億豫算は遮二無二遂行しなければならぬ。物資の不足は現實的に國民の覺悟を要請しなければ置かないであらう。經濟的現象の後を追つかける様に斷行されて来た從來の統制經濟は、そんな生硬い方策から更に一段と強力な方策を要求されねばならぬ。かくて國民の好むと好まざるに拘らず權力的統制經濟の完成は必然的であり、事變收拾、東亞新秩序の建設といふ國家目的に經濟を最も有効に活用しなければならなくなつて来て居る。

東亞經濟ブロック——就中日滿支經濟ブロック——の現實が

一、現在の日本としては所謂大陸の要求する資金及び物資を凡て供給し得ず

謹賀新年



年頭祝辭

聖戰第四年、昭和十五年の新春を迎ふるに當り、謹んで友邦同盟通信社の同人諸君に年頭の御祝辭を申し上げます。

國通社同人もノモンハン事件のハルハ河よりアムール、ウスリー張鼓峰と延々四千キロに亘る滿ソ國境を睥睨しつゝ、元氣一ぱいに越年しました。

日滿一如の精神に依り本年も亦英氣を新にして大いに頑張りませう。

同盟通信社萬歲。古野社長萬歲。昭和十五年元旦

滿洲國通信社 社長 森田久

滿洲國通信社

- 社長 森田久
- 理事 三浦義臣
- 同 中島俊雄
- 同 升井芳平
- 監事 中川増藏
- 同 姚任
- 社員 一同

時局柄兩社員相互の年始狀交換を廢しこれを以て御挨拶にかへます

二、所謂大陸も亦日本の要求する原材料を得ない

實狀にあるとしても自立經濟——東亞經濟同體——の建設に向つて統制が押し進めらるべきであるとすれば、假令將政權に對する武力的闘争が一段落つたとしても、統制經濟は到底之を緩和することは出来ぬであらう。寧ろ國民的犠牲において、經濟的能力を造出して、この有史以來の大業成就に巨歩をすゝめなくてはならない。もとより事變、世界情勢の變化によつて、その統制の内容

底力を検討して民族的力量を買ひ度い。一九一七、八年當時の獨逸、ソ聯の經濟力がいかなる状態にあつたか！單に物資窮乏状態においてもより現在に於ける我國と同日の比ではなかつたであらう。殊に戰敗の國と四百餘洲に亘つて戰勝を誇る日本とを同列に論すべきではないかも知れない。然し、窮乏のドン底から立直つたその力。この力を國民が體得する限りにおいては、物資不足に悲鳴を擧げる必要は毛頭ないであらう。

(三面へつづく)

諍臣無ければ社稷殆りし、言論界は特に考へ直さねばなるまい、お互に輝を固く緊めネジ鉢巻でモリ／＼やらう。

名古屋支社長

吉川 義 章

紀元二千六百年を迎へて祖先の忍苦を偲べば、東亞聖業達成の途上にある今日物資の不足や交通地獄等云々するは勿體なし。簡素其もの、樺原の皇居を想起せば家屋の建築制限等に不平の云へた義理でもあるまじ。今日誓澤の念起らば先づ神武聖業の御歴史を緋け。

福岡支社長

麻生 林 策

今年こそは／＼とは来る年毎に言ひふるして来た言葉だ。大陸への前進基地福岡の地理的重要性はモウそれでは済ませなくては来た。利鈍成敗は問題でない。兩鬢の霜もものは發刺たる元氣でウンと頑張りやう。いや頑張り通さねばやつて行けぬのだ。

關門支社長

船木 重 光

一億同胞一心を以て與距の聖業に勇往邁進するの秋、我らの責務は愈々重く同盟の使命益々大を加ふるを痛感す。我ら支社員亦同盟精神を一段と昂揚し大和協力負荷の大使命達成に遺憾なきを期したいと思ふ。

長崎支局長

田端 秀 文

今年ほど有意義な併し重大なる岐路に立つ年はさう滅多にあるものではない。支那事變の處理は勿論大切だが、妖怪餓鬼白晝闊歩する世界の潮流に掉して國を誤らざるやう本當に大旱の雲霓を望むが如く日本丸の名船長が欲しい。

大分支局長

岡本友三郎

紀元二千六百年、あゝ何たる感激の新年でせう、肇國以來皇威八

世界は再び大戦の渦中にある。歐洲における交戦各國が、現在の如く所謂「無血の大戦」のまゝで推移してゆけば、ゆくほど、各々の國民經濟自體を、大戦の壓力に對照してゆく爲に、勢ひ經濟組織や社會制度の變革を餘儀なくされて居る。但しかる革新の方途は、國によつて緩急の程度に異にして居るであらう。然し、これにして國民經濟機構の革新と云ふことが、避くべからざる勢ひであることは明言出来る。とすれば、そうした變革をいかに摩擦なく圓滑にすゝめてゆくかが問題とされなくてはならない。我國における本年の重大問題も、經濟的矛盾の露呈とともにその方向に向つて提議されてゆくであらう。従つて國家經濟としての力を減殺することなく、國民經濟機構の改革を圖ることは必要であると共に必然的であらう。且つ東亞經濟建設の急務なることを認識すればするほど、その指導的立場にある我國としては、かくして國民經濟自體の優越的地位を獲得しなければならぬ。寔に重大な歳は本年である。こゝろした事態の推移を注視しながら國策に協力し、併せて同盟經濟部確立に邁進し度い(生)

マニラ通信

東洋の認識を 持たぬ比島人

在 マニラ

中 屋 健 式

一、比島人は苦勞 が足りない

マニラ にもやつと多が来た。見たら先づ東京の九月始めの感じだ。比島人にすれば勿論多なのである。マニラに來てからもう四月、フィリッピンに印象はと聞かれると、過去二ケ年餘に互つて北京、天津、上海、南京、香港と皇軍聖戰の中に生活して來た僕らとつては、何だか張合ひがなく、呑氣なフィリッピン人の生活は馬鹿々々しくも感ずる。

國家としても、民族としても、比島人はまだ精神的に苦勞が足りない。だから我々が比島に來て一番不愉快に感じ又不審を懐くのは、比島人 果して東洋民族としての自覺があるかといふことだ。言ひ換へれば、比島人は日本が支那に於て行ひつゝある聖戰の意義を了解してゐない。だから一般に同じ極東にありながら日本の東亞新秩序建設の努力に對して關心を持たぬばかりでなく、その誤れるデモクラシーの立場から反對してゐるものも多い。

我々日本人にとつては、すくなくとも日本は東亞永遠の平和を確立すべき使命を與へられて居り、従つて比島も獨立後は當然日本と緊密なる友好關係を結び、**經濟的** 提携を強化すべきだと考へ、この理想達成のため、あらゆる犠牲を拂つて努力し

故岩永前社長の 百日祭と追悼會

百日祭

前社長故岩永裕吉氏が輕井澤の別荘に急逝されてから早くも百ヶ



同日午後五時半から丸の内東京會館で故人と親交のあつた人々だけの追悼會が営まれ近衛文麿公、松平宮相、有田前外相、佐藤元外

日米友好親善に貢献の 故岩永前社長頌徳決議文

五日故人の靈前に贈る

多年日米新聞界並に兩國間の友好親善關係の増進に多大の貢献をなした前同盟通信社社長故岩永裕吉氏の業績を記念するためアメリカのA.P.通信社理事會では十一月十四日同氏の頌徳決議文を可決し故人の親友の一人であるクーパー總支配人に托し故人の遺族へ傳達を依頼してゐたがこの決議文が十



追悼會

二月二日横濱

に入港の郵船水川丸で郵送され、五日同盟本社に到着した、この決議文は美しい黒皮の表紙で蔽はれ全文百廿語はオールド・イングリッシュ・スタイルの飾文字で記された豪華なもの、その



文の一部)

紘に輝いて今や東亞建設の聖業はその緒に就かんとしてゐる。我らはこの大業の目的達成に邁進せんことをこゝに誓ふものである。

鹿兒島支局長

三増 正 穂

紀元二千六百年を迎ふるに當りこの大御代に生を享けた身の幸福を思ひ、非常時下の國民として盡忠報國の誠をいたし且つ大同盟の一員として同盟旗の下に死なんの決意を固くするものである。

富山支局長

樋口 徳次郎

悠久二千六百年、意義深き御代に生を享けたことを欣び且つ與へられた持場の崇高さに一層喜悅奮躍する。たとひそれが文化的使命重大な同盟全體から見て極めて小部分の職場であるとしても同盟の一員として社會的選士たるの矜持押へ難く、社旗は光彩益々輝しさを加へるであらうことを確信して二千六百年からの第一歩を踏み出さうと思ふ。

青森支局長

蒲田 基

お正月を迎へる度にいつも「今年こそ」と緊縮一番意氣込みみだりは大したのだが顧みて忸怩たるものがある。紀元正に二千六百年と區切りのいゝ新春を迎へて今度こそは何かしら革新的意義ある生活を營まうと思ふ。今や上下を擧げて新東亞建設に邁進しつある秋今からでも遅くないの意氣でやつて行く決心。

釜山支局長

磯部 彌太郎

敬神の念を更に昂揚して體位の向上と節酒の勵行仕事は議論より實行へ。

金澤支局長

櫻 鐵三郎

八紘一宇の大精神に則り東亞盟主としての確乎不動の地位を確保

(三面のつゞき)

に於ける反日空氣の醸成に與つて力あつたやうである。従つて比島人自身は現在一般に決して親日であるとはいへない。むしろ支那事變勃發直前の蔣政権の如く反日且毎日の空氣が徐々に醸成されつゝあることを我々は注意しなければならぬ。

右の實

例として今一つの例を擧げるならば、比島に最近行はれつゝある獨立再檢討論の論據の一つが恐日論であることである。過去四十餘年間に互つて比島民が闘ひ續けた結果遂に獲得した「獨立」が、一九四六年といふ間近に迫りつゝある現在、比島民自身の間に獨立延期或は再檢討をなすべしとの議論が出て、議會に於て論戰が行はれたことは、誠に不思議千萬である。しかしその論據となつてゐるは中部比島の砂糖業者の利益を代表する政界の一派と純然たる學術的立場に立つ經濟學者の一派の唱へる「一九四六年に獨立することは比島の經濟的自殺である」といふ議論が主となつてゐるものであるが、又一部には獨立延期乃至は再檢討の理由として「獨立後日本は比島を侵略するであらう」との議論が眞面目に行はれてゐることである。かゝる恐日論が比島に行はれてゐる限り、獨立的に比島は行はれてゐる限り、關係の樹立は全く困難であらう。經濟力と國防力に自信の無い限り隣接國と協力を保つことが絕對的に必要であることを忘れ、徒らにその侵略を恐れ、毎る結果が如何になるか、國際情勢に明るい者の誰しも了解し得るところであらう。

二、經濟思想は幼稚である

話が大へん固くなつたが、惡口序でにちも少し惡口

を言はして貰はう。

去る十一月十五日ケソン大統領は比島コンモンウェルス政府成立四周年記念祝典の席上に於て、外國人によつて占められてゐる小賣商を比島人の手に歸すべしとの演説を行ひ、政府は着々その實行を進めてゐる。この演説によつて筆者は始めて、比島の小賣商が比島人の手によつて行はれて居らず、外國人(過半数は支那人)の手に歸してゐたかを了解した譯なのであるが、およそ自國の商業が外國人によつて行はれてゐるといふ一事だけでも、比島が如何に幼稚な國であり、これで果して獨立が出来るかどうかを疑はしめるに充分である。ところが、

笑止千

萬にも、ケソン大統領の意圖が外國人商人の排斥にあつても、實際問題として現在の比島人には小賣商の如き職業は不適當であり且不可能に近いものであることが判明して、筆者は呆れるといふよりも驚いたのであつた。といふのは支那人商人が計數の途に長じ、商賣は親切、サービス良く、勤勉であるに反し比島人にはこれと全く反對のことが言へるのである。試みに比島人の商店で買物をし、剩餘を求めて見ればこの話が何等の偽でないことが判るであらう。比島人の小賣商人は、商品を顧客に賣るのではなくして「賣つてやる」のであり剩餘に至つては

日本人

や支那人が暗算で簡單鉛筆で計算ししかも往々間違つてゐるといつても決して誇張ではない。その不親切に至つては贅言を要しない。比島人自身が、比島人の店よりも支那人日本人の商店を好むといふ事實が何よりも雄辯にこの事實を物語つてゐる。或るマニラの有力なる米國人實

業者が「比島人と提携して事業を起しても成功した例がない」といつてゐたが、比島人は政治家としてあまりに發達し過ぎた半面、經濟生活はその大なる小なるを問はず全く無智に近い。

比島政

府は政治的獨立後に求むべき經濟的獨立に備へて、國產獎勵を行ひ、國營興發會社なる政府直營の會社を設立して産業の開發に努力してゐるが、結局經營の杜撰と勞働者の不能率とで良好なる成績をあげてゐるとは言ひ難い。

一般下

比島政府の首腦が獨立達成の目的の下に相當の努力を拂つてゐることは認められるが、層階級殊に肉體勞働者に至つてはその非能率の甚しいものがある。從つて土木事業の如きは比島民にとつて極めて不得意なる仕事に屬する。勞働者はその非能率を棚に上げて、賃銀値上げの要求をなし、勞賃の争ひはたまがけない。勞働裁判所に事件が移されると先づ勞働者側の勝利に歸するといふのが常道である。

若い國

によく見る例として法律萬能、辯護士の勢力が大きく、國民は一寸した問題でも裁判所に訴へその判決でないと納得しない。我がが常識で考へて勝味が無い問題でも裁判所で敗れる迄は承知せず、結局高い訴訟費用を拂つて辯護士を肥らせてゐるような例が屢々ある。だから文明國ではおおよそ裁判の對象にならな

三、洋服を着た野蕃人

い。訴へる等全く正氣の沙汰ではない。

かゝる 國民性を評して或る米國人は「比島人は洋服を着た野蕃人だ」と言つたが、誠に適評である。要するに「井の中の蛙」式に思ひ上つた國民で、二言目には「東洋唯一のキリスト教國」と言ふ。比島人がかゝる國民性を教育の力によつて是正し、正しい自己認識を行はない限り、現在の外國(殊に支那人、日本人、シヤム人、印度人の如き東洋人)侮蔑の空氣は益々濃厚となる一方で誠に寒心に堪えない。

スポー

ツの分野に於ても、比島は極東に於ける先進國を誇つてゐる。日本が今日の如くスポーツの隆盛を見たのは比島のお蔭であるといふのが彼等の自惚である。最近比島を訪れる外國選手の数に相當に多く、又日本選手に於てもスポーツマンシップの如きは全く無視されて居り、外國選手が比島選手に敗れたら大騒ぎである。結局比島では外國選手は決して敗れてはならないのである。

若し敗

れたら必ずその國を侮るといふ恐るべき國民性を持つてゐる。きれいに戦ふといふよりは唯勝つてばよいといふスポーツに對する考へ方は、比島がおよそ非文明國であることを物語つてゐる。

若し敗

比島を訪れる旅行者は、比島人がその生活程度が低いにも拘らず身なりだけを飾り、食と住には金をかけないといふ著しい對照に一驚を吃することであらう。この見榮を張ることは比島人の特性で何事にも上つすべりで、内容のない國民であることがこの一事を以て了解出来るのである。又比島人が平氣で嘘を言ふ、嘘をつくことが罪惡でないといふ觀念によるものらしく、嘘が直ちにばれても恥と

思はないのには全く閉口する。

四、獨立後の比島はどうなる

さて問

持った比島が獨立した後はどうなるかといふことである。米國の統治が比島人を民主主義的政治と自由主義的思想で増長させてしまつたことは、大失敗である。國民には鞭を以て驅むべきであつたやうである。米國は經濟的理由から比島の獨立許容を約束したが、あと七年の後は全く東洋思想と相容れないしかも東洋民族による國家が東洋に出現するといふことは、東亞の新秩序建設のため國を擧げて努力しつゝある日本にとつて決して輕視すべき問題ではない。尠くとも現状のままであれば、日本は米國から「厄介物」を一つ背負された結果になる

こゝで

考ふべきことは、日本が弱小國に對する政策が單なる「親善工作」では不十分であるといふことである。比島が極東に存在する限り、比島は好むと好まざるに拘らず日本の「東亞に於ける盟主」たるの地位を承認し、この關係に於てのみ提携すべきである。從來日比親善を言ふ者はたゞ比島人と握手すべきであるの考へ方を持つてゐるが、かゝる考へ方は比島人をしてこれ以上増長せしめ且つ日本に對し侮蔑の眼を向け恐怖の心を持つに至らしめることを深く戒心すべきであらう。

日本は

最早比島の如き半未開國とは對等の地位に立つてゐるのではない。比島が若しその誤れる排外思想と對日態度を改めない限り獨立後の前途については測り知るべからざるものがある。(一九三九・一一・二二)

すべきの秋である。これがためには萬民捨身の心構へを以て苦難克服の覺悟を要す。われらまた國策完遂の使命達成のため通信報國の挺身隊として奮進せんのみ。

いざ往かん興亞の一路初明り
ありがたき大御代に吾も在る初日
一億の心一つに御代の春

熊本支局長
河邑 光 城

神代史に傳へられる諸冊二尊の國生みの神業は果してどんなものであつたか、吾々の想像に絶したクシビな事柄であるが、今、日本は一種の國生みの神業を支那に於て敢行しつゝある。吾々國民は取りも直さず八百萬の神々の一柱である。それだけの自負が持ちたい今日の日本に生れ合はせた光榮を子孫に誇りたい。

岡山支局長

杉山善之助

東亞新秩序の實踐指導者から世界新秩序への中樞——皇國日本の使命の重大さを改めて考へて見た紀元二千六百年こそはその意義ある首途ではある。しかし前途は言ひ知れぬ荊棘と難嶮の連続だ。こよなき試練時に生れ合した自分を喜ぶ、

新潟支局長

落 千代二

國運今日より隆昌なるはなく國歩今日より困難なるはない。恰も紀元二千六百年、新しき世紀は國民的信念と自覺とを要望し民族的力と熱と氣魄とを欲求してやまない。吾々は今世紀の黎明に生れ合はした事の幸運を心から祝福し誓つて新世紀の太陽を空しうせざらんとす。

若水や佐渡は峯より明け初めぬ

高知支局長

植松 孝 義

今更ながら日本民族の偉大、日

我が國海運の狀勢

伊勢合管船局長講演

十一月二十七日午後六時半から本社八階會議室に通信省管船局長伊勢谷次郎氏を招き一支那事變及歐洲戰爭を背景とした我が國海運の狀勢について講話を聞いた。寒波來で一兩日メッキリ寒氣が身に沁むほどで而も未だ煖房も入らぬ廣間に、島山事務以下數十名が熱心に聴講、演者また熱を帯び寒波も物かは極めて緊張した講演を終り八時半散會した。(寫眞は講演中の伊勢谷局長)

講演要旨

英國の海運

業は阿片戰爭直後から勃興し出したのであるが日本のはその出發が非常に遅れ明治十年前後からである。即ち西南戰爭の時船の必要からスタートされたもので、近代海運の濫觴ともいふべきである。

明治

頃には急々發達の氣運が熟し三麥海運と言つたものが郵船となりその後瀬戸内海を中心とする大阪商船が出来るといふ具合に發展して來たのであるが、更に日清役後に船の必要から躍進し、日露役の經驗により二十萬噸内外の船舶を保有するに至つたのである。

造船

獎勵遠洋航路補助等が海運界の發達に効果を齎し、歐洲大戰當初の頃は日本の保有船舶噸數百七十萬八千噸で世



の不況を救ふ事が出來た。昭和十一年頃 木運相時代に優秀船新金貸付を效果あらしむるため、利率を低下し且つ貸付範圍を擴大し將來の戰爭に對しても心配なきを期したのである。

頼母

昭和十二年になつて世界の狀勢が好轉し來つたので、運賃統制の必要を海運業者が認識して海運自治聯盟を組織するに至つたが、この七月に日支事變が起つた、この時我が國の保有船舶は五百萬七千噸に増加してゐた。

事變

による海運界の影響として海運に困難を感じ、従つて遠洋配船に支障を來すと共に近海市場の運賃が高くなるといふ狀勢になつて來た結果運賃統制の必要を感じ船舶運賃統制法を實施するに至つたのである。

當時

海運の重要問題は近海の荷動き状態にあつた所謂夏場の荷動期に入つて運賃が強含みとなり、統制困難となつたので政府が指導する必要を生じ船主協會と自治聯盟から委員を出して自治統制委員會を作らせ運賃引下を命じ夏場を切抜けて來た。

議會

で取下げられた所謂擴充計畫に伴ひ船主の思惑が生じ船舶の奪合から閣取引となり、一方荷主の側にも運賃の閣取引がはじまつた、二、三月となつてもこの状態が緩和されないのみならず統制のやり方によつては却つて運行を阻害するといふ状態

造船

業者の最も留意すべきものであらうと思ふ、英國は日本にとつて海運の敵と見ねばならぬのであるが英國は造船價格が安い。従つて日本が造船價格を引上げるためには計畫造船を行つて造船業の根柢を堅め技術能力を向上し不況と好況とに係らず造船する必要があるこれが方法としては造船金融法を作り造船金融を確立するとか船舶建造資金補給法を活用する必要があるまた

海運

業は國際産業である關係からその運行も極めて鋭角的で而も運賃コストによつて影響を受ける事が最も多い、日本の海運はすべての點において世界に活躍すべき好條件を持つてゐるのであるが、先づ運賃コストを低減する事が最も必要である。これが要素として船舶建造價格、船員の能率及給料、利用經營の方法等が考へられるが我國は經營法については決して他國に遜色がないまた船員の能率も劣るところなく適切な素質を持つて居り給料も英米に比して低位にある。

最後

造船と製鐵の關係を考究する必要ありまた船員老後の保障方法を講じてやらねばならぬと共に、船員の物質的待遇のみならず精神的待遇法を研究し優良船員の養成をなし、世界の經濟界を動かすべき日本の大海運を築き上げねばならぬ。

不況

時の緊縮對策として船齡二十五年間の見透しで造るべきで、海運組合が振興積立を行ひ好況時に積立て、不況時にこれを利用すればよいのである。

大谷憲兵中佐と防諜懇談

防諜懇談

東京憲兵隊本部特高課長大谷憲兵中佐、野村正一大尉、和田喜代治少尉外三氏は十四日午後一時半同盟本社を來訪三階會議室において古野社長から社の現状使命等につき説明をうけ社内を參觀三時から新館會議室において堀常務、松本編輯、鷹野通信局長以下局長各部長らと防諜に關する懇談をなした後同盟製作映畫「スパイはお前だ」一報道挺身隊」を觀て五時辭去した。

廈門支局開設(十一月三十日)

社團法人同盟通信社廈門支局

廈門市蓮花路十八號

濟南支局住所訂正(十一月二十九日)

社團法人同盟通信社濟南支局

濟南商埠地三馬路小緯

六路一七號

本國體の莊嚴さに自ら感激を覺ゆる我等は一切の艱苦を克服し東亞新秩序建設世界維新實現の爲聖戰の完遂を期せねばならぬ。

函館支局長

瀨川伊和男

萬邦無比光輝ある皇國二千六百年の歴史を顧み速に成らんとする興亞聖業の完遂と通信報國に一層の努力を傾倒せんことを念す。

通信局長 鷹 嘯

紀元二千六百年を眞に意義ある年として後世に傳へることが現代日本人に課せられた最大の重責と考へ各々その本分に死力を盡すべきであると思ひます、日常の心構へとしては一切の困難を克服して絶えず建設的努力を續けて行きたいと思ひます

福井支局長

青木榮次郎

聖壽の萬歳を奉祝し併せて竹の園生の彌榮え奉らん事を祈る。吾等報道報國の任にある者、この國家多事の際に意義深き紀元二千六百年を迎へて一段の試練を加へるものあり、身を挺して報道の使命完遂に邁進せんとす。

山田支局長

山田繁治

世界無比の光輝ある嚴肅なる時代に覺醒し同時に世界無比の組織下にある同盟通信の特殊の使命を益々認識し一死通信報國に邁進を誓ふ。

和歌山支局長

吉田良好

正月毎に思ふ事がある、あるが總てがお座なりではないか、個性の發揮を希ふのだ。何も反日國許りに太陽と大地が恵まれる約束はない。強い風に逆ふ時は強い心で皆がその部署々々を守る事によつて日本の組織は完全に成る、ボヤボヤすると大陸のさくらの心燃ゆる兄弟へ對して潜水夫に空気を

専用線の鼓動 (二)

北部専用線開通一周年を回顧して

地方部

西 部に比較して通信設備が立後れの感あつた東北、北海道へ待望の新聞専用線(本社「青森」函館「札幌」)一千二百キロが開通して、一月二十四日は滿一周年になる。

今

専用線がなかつた一年前を懐ひ起すとつた今昔の感に堪へない。當時は一日八十餘通話の預約電話で午前八時から午後九時半まで、青森支局經由札幌、函館へ商況は東京、大阪、名古屋三市場の短期寄付から始まり、長期、現株、國債、三品、商品市況、外經これに一般ニュースを織り混ぜ吹き込んでゐたが一度政變突發事件等に見舞はれると急音の申込電話だが回線の少ない方面だけに急速な聯絡をとる爲には相當苦勞が多かつた。

又

東北線は降雪、雪どけ、暴風雨等の折はよく長時間の障礙が多かつた。一番利用價值のある飛行便もこんな場合は殆んど用をなさず(現在も積雪期は札幌飛行場は閉鎖される)やむなく電報だが銘柄の多い長期株の數字まで入れるとなつと何萬字と云ふ大きな電報を打たねばならなかつた。一方眞は全くの汽車便依存(勿論好天の折は飛行便も利用)だつたので、北海道では中央紙に比較し一日半乃至二日後れて掲載

され、實際に於て紙面の格好を整へてゐたに過ぎなかつた。之も當時の設備では最善の方法だつたのだから致し方がない。

さ

て専用線開通後の一年は平沼内閣總辭職、阿部新内閣の成立、數回に亘る論功行賞の發表、精勵下の諸重大ニュースはもとより専用線の餘裕を見せ大量のローカルニュース、日支事變、全支に活躍する東北健兒、荒熊部隊の輝やく武勳、滿ソ國境紛争、他方外信は獨波戰端開始に引續き英佛の對獨宣戰布告から第二次世界大戦への移行、ソ聯の波芬進撃等々物騒然たる西歐から帝都に飛ぶ戰況等を一觸即發

朝

夕利用の定期的電送寫眞と共に小氣味よく消化し高度の威力を發揮して居る、沿線地方紙も之と併行して時々刻々の紙面は刷新されつゝある。此の間勿論關係地のニュースは、全日本スキー選手權大會(札幌)夕張炭礦五期爆發、秋田大地震、推内沖ソ聯船遭難その他他れも専用線なればこそその好成績を収めてゐる。幸ひ昨年は危懼された線の障礙も一度だけで専用線開通後の一年は極めて成績良好だつたと言へる。

專

用線の活動に休止符はなない。時局益々重大、複雑怪奇の様相を呈する秋、今後に望み度い事は關係各支局の強化と相俟つて、沿線地方紙が相當の犠牲を忍び西部に對抗して重要ニュース收容の爲締切り時間の延長を爲す事だ。(峯生)

青森支局

待

望の東京札幌間の専用線が開通し所謂北方通信の前進基地が青森から札幌へと北進してから早くも一周年を迎へた、開設當時専用線に經驗あるもの少く且つ裸線のコンデションもどうかと氣遣はれたが、その後大した事故もなく先づ順調な躍進を續けてゐると云ひ得る。

嘗

て大正の末期、青函海底電話線の開通で「地方新聞界の劃期的躍進だ」と大膽言したのも夢、その昔八通話の預約を青森で受信、これを連絡船に托して函館に送り、函館から奥地へ電話送信した當時を想起すれば轉た感慨無量のものがある、専用線の開通こそ正に新聞界ばかりでなく北方文化史上に一新紀元を劃したものと云へやう。

豫

約通話時代、號外ものがぞで放送したがまだかなどと小言を喰つたり、ものによつては朝の原稿が夜までかゝつたりしたものである、従つて専用線の計畫は久しい間の希望であり理想であつたが、財的恩恵に薄く電話回線も少い當地方としてはその實現も何時のことやらと期待薄にあつたが、國策通信社「同盟」の威力は設立以來須臾にしてこれを實現化し東北、北海道、樺太の間々まで遺憾なくその眞價を發揮したものであ

前

進基地は札幌へ移つたが此處青森は一朝回線に故障のある場合重要連絡の基地となり又管下には東奥、秋田魁等の地方有力紙を控へて全支局員一致團結以前にも増してハリ切つてゐる

殊

に六月二十一日油頭敵前上陸或は八月二十八日平沼内閣總辭職より同三十日阿部内閣親任式舉行に至るまでの慌たしい政局の動き等又九月三日英佛對獨宣戰布告當時の號外戦にその眞價を遺憾なく發揮したる如きは青森函館札幌同時受信の専用線なればこそ全く痛快の極みであつた。

今

茲に開通一周年を回顧するに當り今後益々その運用に萬全を期し社務遂行に遺憾なきやう精進しなければならぬことを痛感するのである、尙この専用線開通に當り昨年一月九、十の兩日當函館支局に於て東北北海道方面聯絡會議が開かれたが當時風を押し、奮闘した瀧川支局長が病に仆れたため會議その他に充分満足を得なかつたことと本社より一行東北北海道各支局長等來函に際しては北海特殊の猛吹雪のため連絡船が半日以上青森に立往生し午後六時着函するや直ちに宿舎湯の川福井館にて深更に至るまで會議を開いた等思出の一つである。

函館支局

昭

和十四年一月二十四日、この日こそ、東北北海道新聞界に黎明を齎らしたる記念すべき日である、この東京一札幌間一千二百キロ同盟専用線の正式開通によつて從來比較的恵まれなかつた當方の地方紙が中央紙に劣らぬレベルまで伸びるを得たのである、當函館支局受持社たる函新函日函タイを例に取つても内外信東亞運動經濟と奔流するニュースは

臥

牛山下大函館市の都心、惠比須町に頭張る我が支局は奔流するニュースに俊敏律の如く晝夜を分かたず一意専心社務遂行に活動を續けてゐる。受持ち新聞社はさして大新聞でないが新開社はさして大新聞でないが新開社、函日、函タイと古豪、新鋭入り亂れての戦線は常に我等をして緊張の第一線に立たしめるのである。また預約を通じては空關の(七面へつゞく)

斷つやうな結果になる。
新京支社長 藤川 佐吉

日本の総合国力の一要素たる誇りと責任を感じ第一線將士の心もて自らの職に励めたいものと思ふ。
本社技術部長 吉田 松、治
報道戦線互萬里 席捲空界幾星霜
迎敵二千六百年 榮光燦然同盟陣
臺北支局長 益崎 綱幸

(家持の歌をもつて)
皇の御代榮んと南なる
蓬萊島に黄金花さく

(六面よりつゞく) 室毎、北日、小樽の北タイ支局あり、市内の經濟通信得意先も二十軒に垂んとし、前後場の放送時刻には專屬少年アナウンサー三名に應援社員が一人にも電話二個乃至三個を操作し敏速に放送する戦場の如きさまは外來者をして三嘆せしめてゐる、宜なるかな、函館では「生きた仕事を見たかつたら同盟へ行け」と云ふ定評がある、ます／＼張り切らざるを得ないのである。

瀬 川支局長の下に十三名の全員一致、一糸亂れぬ通信戦線の奮闘ふりは我れながら、げに頼母しと限りである、若し夫れ東札専用線開通後の偉力に至つては今更賑々するだけ野暮で「同盟の専用線開設後の函館の新聞は全く面目を一新し名實共に一流地方紙にレベルを上げた」と業界の定評を耳にする時、大同盟の偉力と責務を再認識せざるを得ない。
(岡本生)

豫 約通話時代から専用電話へとわが國北方文化啓蒙の大使命を擔つて待望の同盟東京

札観開専用線が開通してこゝに一年、今更の如く顧みて感なきを得ない、電送寫眞の隨時送受信とも北日本ニュース界の飛躍的發展を齎らした昭和十四年、この一年こそわれ／＼北方勤務者にとつては忘れ難い年である十數年前北海道と内地との通信聯絡はと云へば電信によるのみであつて電話聯絡の方法なく、ニュースは専ら電信或は連絡船を通して聯絡してゐたことに思ひを致せば今日の飛躍の大發展こそまさに隔世の感がある。

十 年を一時代として次の十年目にはこの専用線が果して何處まで延びるであらうか、過去を顧み將來を思ふときこの専用線がわが國北端の樺太まで延びるのも決して夢ではなからう。

松 内の政變に屠蘇機嫌もけし飛んだ正月早々開通準備に著手し十五日漸くその取付工事を完成、専用線を通してはじめて本社を聴いたときの喜び何百里離れたこの札幌で帝都の賑々たる心臓の鼓動を聴いたときの感激！ 受話機を耳にしてこの一時を待ちに待つた一同の顔には期せずして一瞬緊張と喜びの色が溢つた、心のうちでは思はず萬歳を叫んだ、そして次の瞬間にはもう距離の短縮、時間の短縮と、任務の益々重大なるを直感した、爾來この感激をそのままに忙しきも苦勞も忘れて一意任務に邁進してゐる

過 ぎし第七十四議會引續き四月二十八日のあるヒトラー總統の歴史的大演説、近くは思出も新たな今次歐洲戰爭勃發の初期、獨軍のポーランド進撃開始英佛の對獨宣戰布告等々目まぐるしき世界の情勢推移は刻々に報ぜ

られ専用線の效用は日一日と昂められて行く、一方専用線開通直後試みた全日本スキー大會の記事寫眞の送稿陣は效果正に百パーセント、その後札幌からの送信がヒット續出の威力を示してゐるのも惟ふに専用線に俟つところ絶大だ、殊に北方の鎖鑰として、

札 目前の北洋漁業權益、北樺太石油石炭利權問題など國家的權益が猫眼常なき聯絡を相手に漸やく正常化せられんとしつゝある

緊張を覺ゆ 逓官同報無線通信科 揚石 義雄
現代の複雑なるニュース報道網に一段の迅速化、統一化をモットーとする同盟通信社は、益々内外報道戦線に目覺しい活動を續けてゐる。現に我等が學びつゝある同報無線通信も又本事業の一部である、幸ひ我等一行六十名は去る十一月廿五日同盟本社を參觀する機会を得た。先づ本社を參觀してその宏大なる組織機構に力強さを感じた八階の大廳接室に案内され接待を受けながら騰嘴通信局長より同報無線通信取扱に關する注意とこれに携はるものゝ心構について御説明あり、次に同社内中電分室荒木主事より種々の注意を受け、それより各部の見學に移り電送寫眞室、書籍室、編輯室、對外

同盟參觀感想記

「逓信官吏練習所で無電の講習を受けつゝある通報員六十名が、十一月二十五日日本社を見學した事は前號に掲載したが、その後左の兩君から感想記が寄せられた、茲に掲載して深く感謝す。編輯係」

とき第一線よりのニュースの動脈たる専用線の確保と威力こそひと同盟のためのみならず全日本にとつて益々その重要性を加ふべきことを痛感する所以である。

希望が胸にたぎる

江口 敏郎 逓官同報無線通信科
希望が胸にたぎつた、空想が泉の様に湧いた、私は門出したんだ、同盟通信社：同報無線、飛躍、そうだ、飛躍しようとする自身の血は、私は興奮を感じる、その興奮が上京してから今まで日と共に昂まつた。

十一月二十五日、私は遂々同盟通信社の門を叩いた、未來の私には、どうしてもそれが必要だつたのだ、通信局長騰嘴氏の口から出る音聲、その總べてが私の耳に、飛び込んだ、ニュース、ニュース世界のニュースが、それが我が手に依つて傳達されるんだ、そして國家有事の際には、あゝ遂に、我が身は通信戦の第一戦に躍り出たのだ。

第六師團無線班 熊本支局見學

第六師團管下各部隊選出無線教習班兵六十名は舊曆十四日午前北野少尉に引率され熊本支局を見學、前庭に於て河邑支局長より同盟の機構とその運営の實情、使命等につき詳細説明を聴取し次で事務室に於て各種の通信狀況を詳細見學したが就中同報無線受信については佐藤オベレーターより技術的な説明を試みるところあり引率の北野少尉から「今日はよい學問をさせて貰ひました」と謝辭を陳べ見學約二時間にして引あげた、尙當日地元新聞放送局ニュースはこの見學に併せて同盟同報無線裝備につき概略的な報道をした。

騰嘴氏に導かれて廻る數々の執務室の中に生きる人々、總べてがニュースの爲に輝いてゐる。その人々が皆我が同僚なんだ、共にしつかりやらうぜ、私は微笑んだ、嬉しさが身の隅々にまでみぎつた、同報無線室、私は躍り込んだ、そして私の近い將來、いや、明日といふ日に與へられるその仕事を熱心に學んだ、そこにある數多くの機械それも、我が手に依つて操作されるんだと思ふと、胸が高鳴つた。

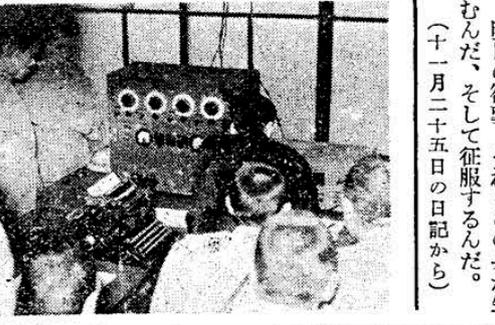
札幌支局

約通話時代から専用電話へとわが國北方文化啓蒙の大使命を擔つて待望の同盟東京

現代の複雑なるニュース報道網に一段の迅速化、統一化をモットーとする同盟通信社は、益々内外報道戦線に目覺しい活動を續けてゐる。現に我等が學びつゝある同報無線通信も又本事業の一部である、幸ひ我等一行六十名は去る十一月廿五日同盟本社を參觀する機会を得た。先づ本社を參觀してその宏大なる組織機構に力強さを感じた八階の大廳接室に案内され接待を受けながら騰嘴通信局長より同報無線通信取扱に關する注意とこれに携はるものゝ心構について御説明あり、次に同社内中電分室荒木主事より種々の注意を受け、それより各部の見學に移り電送寫眞室、書籍室、編輯室、對外

第六師團無線班 熊本支局見學

第六師團管下各部隊選出無線教習班兵六十名は舊曆十四日午前北野少尉に引率され熊本支局を見學、前庭に於て河邑支局長より同盟の機構とその運営の實情、使命等につき詳細説明を聴取し次で事務室に於て各種の通信狀況を詳細見學したが就中同報無線受信については佐藤オベレーターより技術的な説明を試みるところあり引率の北野少尉から「今日はよい學問をさせて貰ひました」と謝辭を陳べ見學約二時間にして引あげた、尙當日地元新聞放送局ニュースはこの見學に併せて同盟同報無線裝備につき概略的な報道をした。



地方新聞社出向 社員制度に就いて

山口 巖

豫て計畫中の地方新聞社出向社員制度は愈々實施されることに決定し其の要綱を全國新聞社に發送した所各社より申込みが續出したので本社に於ては要綱に基き慎重選衡の上第一次分を決定、其の手續きを了つたが出向社員は一月十日迄に本社へ出頭執務することとなつて居る。

出向社員的重要性

出向社員は決して新しいものではなく地方新聞社に於ては豫てより希望する向きが多かつたもので今回の實施が全國各社より多大の好感を以て迎へられたことは決して偶然ではないと考へる。然し各社に於て考へられて居た出向社員は今回實施されたものとは異り地方取材に重點を置いたもの様に承用して居るが今回實施するものは別記要綱にある通り原稿整理に重點を置くものである。

同盟に於ては全國各新聞社を満足すべく取材、記事の整理、通信、聯絡、配信等々に互り多大の考慮を拂つてゐるのであるが一道三府四十三縣、樺太、臺灣、朝鮮滿洲等の廣範圍の地域と二百社に互る多數の新聞社を對象としては如何に同盟社員が死力を盡くして地方事情を審かにしてこれに適應する處理をなすことは望むべくもない。然しながらこれは必ず實現すべき緊要事であるから其の具體的方法の一として我々は地方新聞社より社員の出向を求め相協力して以て新しき境地を開拓せんと企圖したのである。即ち同盟は全國地方新聞社に對する取材、通信

聯絡、配信をより合理的ならしめるために既報の通り職制改正に於て新地方部を形成したのであるが地方部は更に其の使命達成のために種々考究の結果、内部組織の整備に努めると共に地方新聞社の獻身的協力を絶對必要なりと痛感し其の具體策の一として社員出向制度を計畫したのである。出向社員制度は如上の意圖から生れたもので言はば同盟編輯局と地方新聞社との紐帶とも云ふべきものであつて其の運用と效用とは大いに注目されるべきものである。

出向社員の使命

出向社員は同盟に於て何をなすかと云ふ實務的質問を受けるが出向社員は要綱に掲ぐる通り各社の整理部員にして地方事情に精通したる練達之士であるから我等はこれを地方部の整理デスクに迎へ出向社員に屬するプロック地區へ送信する通信の整理に當らしめ併せて地方取材についての計畫も立てさせ事實上の同盟社員として取扱ひ同盟地方部の一員として行動せしめるものである。従つて要綱に明示する通り自社の利益を計り或は素りに行動するが如きは固く禁ぜられて居るのみならず、又左様な餘裕は存しないと考へて居る。

整理の目的

通信整理のみの點から見ると、一般記事中央ニュース、外電東亞電外經等の整理については同盟社員は地方各社編輯局又は整理部員も充分な情報、内報等を知悉するの故を以て大體正鵠を得る事は考へるが地方新聞社の消化力、即ち編輯方針、讀者層、地方事情、締切スペース等に互つては出向社員は同盟社員よりも敏感である。同盟側は一本でも通信を生かそうと努力するに對し新聞社側は如何にしてこれを整理編輯するかに腐心する。この凡を相反する傾向を一ヶ所に纏める結果は大體地方各社の要望に副ふ容量を決定し得るものと確信する、人的資源拂底の折柄各社から其の中堅たる精銳を同盟へ送られることは多大の犠牲たることは言ふ迄もない、然しこの敬服すべき獻身的行動は國家が今、未曾有の聖戰を敢行し物と人との經濟と合理化を必要とする當然の要求に合致するものである、即ち我々は今や用紙の制限に當面して居り、更に新聞製作についての他の物資の制限をも甘受して居る、これ等の制限は更に強化されるべき態勢にあると云ふのは常識である、ここに於て我々の深く思を致さねばならぬことはニュースの整理である、ニュース配信の合理化である、これは決して制限を意味し萎縮を意味するものではない、ニュース配信の大宗をなす同盟ニュースを地方新聞社の要望に副ふ様合理的整理をなすことは國家的に見ても最も緊要な事である、ニュースの劃一と官報化は決して一國文化を向上せしめる所以ではない、地方の文度に應じての紙面と文化工作とは益々重要性を増加しつゝある、これ等の状況に鑑みても同盟ニュースを地方事情に適應する様、取材整理することは最も合理的にして又物資保護の上から見ても絶對必要のことと確信する。

出向社員の實施はこの目的を達成するために最も重要にして且つ目下の状況としては不可缺の事に屬する、この制度實施に依り無駄が省かれ更に中央と地方との文

取材について

取材について考へれば、ここにも出向社員に期待する意義が存する、同盟に於て如何に編輯計畫を立てて見ても地方關係はニュースについては關係地方編輯局の考へる所には及ばない、それは取材力が劣つて居る云ふことからではなくその基調、基準の問題であると考え、これを補ひこれを正すことは地方出向社員に負はされた使命の一である、統制強行の反面には中央と地方とが益々遊離、隔絶する傾向が強くなつて來て居る、これは各層に對して言ひ得ることであるが出向社員はこの間に立つて平衡作用を分擔するものとも言へるのであつて、中央と地方との意志疎通の大役を双肩に擔ふものも言へるのである、この結果出向社員が本格的に運用されるに從つて同盟の取材、編輯上にも重大な變革を齎すことも豫想され、又必ずそこ迄は實現させたいと考へて居る、さりとて同盟は出向社員を通じて地方新聞社の制肘を受けるものではなく、又地方各社は同盟に依つて行動を制限されること無きは茲に斷る迄もない所である。

- 一、地方新聞社編輯局ト同盟通信社編輯、通信兩局ト關係ヲ緊密ナラシメ取材、整理及通信聯絡ヲ合理化シ新聞社側ノ要望ヲ充足目的ヲ以テ地方新聞社ノ整理部員ヲ同盟通信社ト出向セシムルモノトス
- 二、地方新聞社ト出向社員(以下單ニ出向社員ト稱ス)ハ必ズ當該社ノ整理部員ニシテ本社ノ編輯事務ニ通曉スルモノタルコトヲ要ス
- 三、出向社員ハ少クモ一年以上同盟通信社(以下單ニ同盟ト稱ス)ト出向スルモノトス
- 四、出向社員ハ自社ノ利害ニ提ハルルコトナク擔任地區全般ノタメニ公平且ツ最善ノ努力ヲ爲スモノトス
- 五、出向社員ノ俸給、賞與及往復旅費ハ自社ノ負擔トス
- 六、但シ同盟出向中ノ業務用車馬賃、時間外手当等ハ同盟ノ負擔トシ、ソノ算定及支給方法ハ同盟ノ内規ニ依ル
- 七、出向社員ハ絶對ニ同盟ノ指揮統制ニ服シ兼ニ行動セザルモノトス
- 八、出向社員ハ原則トシテ同盟本社トシテ當該社ノ希望ニ依リテハ同盟地方支社局ヘモ出向セシムルコトアルベシ、コノ場合ニアリテハ配屬地方同盟支社長ノ指揮統制ニ服シ兼ニ行動セザルモノトス
- 九、出向社員ニ對シ同盟ニ於テ不適任ト認メタルトキ又ハ同盟ノ都合ニ依リ場合同盟ハ出向社員ノ即時歸還又ハ交替ヲ當該社ヘ要求スルコトヲ得ルモノトス
- 十、前項ノ場合當該社ハ直チニ之ヲ應諾履行スルモノトス(以上)

地方新聞社出向 社員制度要綱

地方新聞社編輯局ト同盟通信社編輯、通信兩局ト關係ヲ緊密ナラシメ取材、整理及通信聯絡ヲ合理化シ新聞社側ノ要望ヲ充足目的ヲ以テ地方新聞社ノ整理部員ヲ同盟通信社ト出向セシムルモノトス

春をも待たて 逝きし二君

山本 五郎君



本社地方部
電信勤務の山
本五郎君は陽
チブスに罹り
東京病院で加

療中の處去月十日午後十一時二十
分遂に逝去した享年二十五、君は
大阪府北河内郡豊野村の出身四條
駿中學を卒業後昭和九年大阪通信
講習所普通科を出て昭和十二年十
二月大阪支社電信部員として入社
し十三年八月本社電信部員に轉勤
今日に至つたもので資性温厚勤勉
にして同僚とも親睦よく將來を囑
望されてゐた青年電信技術員とし
て哀惜される。

酒井 静子さん



福岡支社商
況部勤務酒井
静子さんは本
春來氣管支を
病み引籠り手

當中のところ十一月二十三日遂に
逝去した。酒井さんは昭和十一年
春福岡筑紫高女卒業と共に聯合通
信社福岡支局勤務となり、爾來四
ヶ年精勵恪勤今日に至つた、病で
倒れ發熱三十九度といふのに「社
が忙しからう、こうしては居れ
ぬ」と床を蹴つて立ち上り家人を
手古摺らせたといふ。年頃の娘さ
んに似ず、お化粧もせず髪も無難
作に引縛つてゐたが容姿端麗、良
縁もあつたといふが令兄は應召中
だし、弟妹が幼いので家庭のため
結婚も断り頭張つてゐたのである
が二十二歳の若さで遂に哀しい結
果となつたのである。

元氣でやり居るぞ!! 中島幸基曹長



事變勃發後
間もなく應召
のトップを切
り、北支から
南支と各戦線
に活躍勇戦し
つゝある地方
部員

中島幸基 君は最近〇

中島君のたより

（廣東にて牛馬生）
本日當地に到着しました。幸に

南京だより

炸醬麵に僻易の巻

報部川面書記官、内
山情報官、渥美屬の一行が十一月
二十四日南京にやつて来た。一行
の御世話に總領事館も軍報道部も
同盟一任といふ事になつてゐたの
で、支局では豫めスケヂュールを
作成、その日の中に大平支局長が
付き添つて、維新政府行政院長梁
鴻志、特務機關長三國少將、堀總
領事、海軍在勤武官伊藤大佐等を
グル／＼と廻つてしまつた。

晩めし

は内山情報官が「汚
い店程、うまいものを食はせるん
だ」など、いふものだから「で
は汚い所へ御案内しませう」と同
盟行きつけの北京料理を食はせる
同興樓といふ非常にお粗末な店へ
連れて行つた。この店の料理のう
まさは維新政府の中國人に云はし
ても、今の南京ではベストだと云
ふのだが、最後に出て来た

炸醬麵

丈は僻易したらし
く、御三人とも一寸箸をつけた丈
けで黙つてしまつた。

二十五

日の一行は午前中は
西尾總司令官と維新政府最高顧問

互助會報告

(十一月)

結 婚
津吉 英男(本社政治部)
日下登志子(本社整理部)
本田 正三(同上)
廣瀬 勤次(神戸支局)
横山義一郎(大阪支局)
出 生
溝水 一(本社地方部)第二子男
山本 留吉(同上)第一子男
漆原 治(大阪支社)第二子女
沼邊 武(本社出版部)第二子女
菊地久太郎(中南支總局)第二子

原田中將に敬意を表し午後は今頃
にしては三十年振りだと云はれる
寒氣を衝いて、菊花臺・光華門戦
跡中山陵、明孝陵、天文臺、古鷄
鳴寺、玄武湖等を見學した。

同夜は

同盟主催で太平洋茶

館に歓迎會を催
し、維新政府外
交部長夏奇峰氏
李秘書、同宣傳
局長兼大民會總
本部長孔憲鑑氏
鐘秘書、軍報道
部上田少佐、同
寺西中尉、同赤
星囑託、内田領
事、維新政府宣
傳局顧問柳町氏
田中海軍武官等
同盟と親交のあ
る人達が出席、大
平、坂田、稻津
の三名が出て主
賓を圍み和氣諷
々の盛宴を張つ
た。

(寫眞は當夜
の記念撮影。前
列向つて右より



田中 末吉(本社出版部)第八女
米山 忠雄(本社映畫部)第二子女
岡本 春一(大阪支局)第二子女
佐藤 友三(同上)第二子男
金 相 彦(京城支局)第二子女
入 營
門脇 誠(本社經濟部)
渡邊 公身(本社技術部)
津田 章(同上)
麻田 芳郎(京都支局)
高見 正道(本社々會部)
岡本 正一(大阪支社)
濱 武雄(同上)
應 召
百井 信二(仙臺支局)

病氣見舞

于 松 坡(天津支局)水害
伊藤 壽雄(本社放送部)病氣
齋藤 省吾(名古屋支社)戰傷
西村 潜(福岡支社)夫人病氣
前川 春吉(熊本支局)病氣
種井善二郎(本社社會部)病氣
平岡 慶次(本社運動部)
堀口 瑞典(中南支總局)夫人病氣
山本 五郎(本社地方部)病氣
小池 章(京城支局)病氣
福岡 誠一(本社)同
竹ノ内萬五郎(本社地方部)夫人入
院)

上野 茂(本社地方部)病氣
倉田幸次郎(本社整理部)家族入院
松本 幸一(岡山支局)病氣

紀元二千六百年を迎へて
經濟局長 塚本 義隆
心構へと言つて事新しく申すこ
とはありません。たゞ現在五ヶ所
にも分れて執務せねばならぬ不便
を除くために且つは殺人的に空氣
の悪い編輯室の混雑を救ふために
是非とも本社の新建築物が欲しい希
望に燃えてゐます、少くとも二千
六百坪位の堂々たる新館を。

弔 慰
堀川 武夫(本社政治部)實父死去
小寺 信重(本社特信部)實弟死去
潮海秀之助(本社整理部)實母死去
酒井 静子(福岡支社)本人死去
寶槻 一仁(横濱支局)實弟死去
岡村 二一(本社編輯局)祖父死去
山本 五郎(本社地方部)本人死去
玉井 照代(松山支局)實妹死去
小林猪四郎(新嘉坡支局)實父死去
田中 喜次(本社映畫部)長男死去
山本 憲吾(本社々會部)實父死去
落 千代二(新潟支局)同上
退 社
波多江常磐(福岡支社)
森本 豊(釜山支局)
横島 道子(本社整理部)

